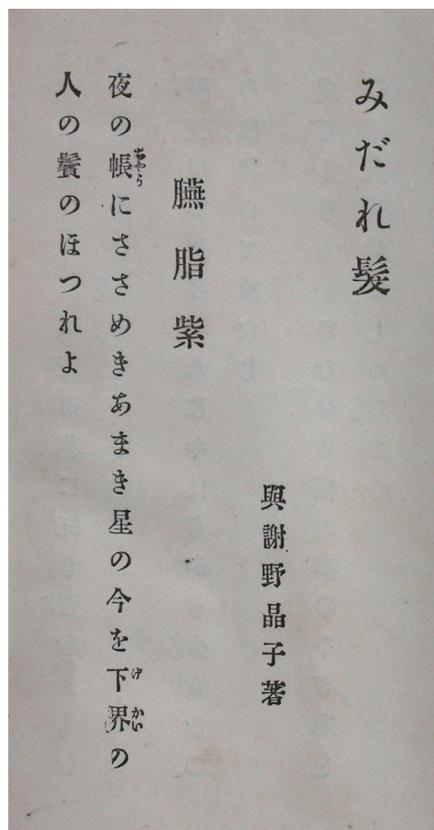


新しい文章（与謝野晶子）



*原田家文書（防府市）1165「みだれ髪」

解説

与謝野晶子（1878～1942）は近代日本のロマン主義を代表する歌人です。

彼女の第一歌集「みだれ髪」は1901（明治34）年8月に初版が発行されました。写真は1904（明治37）年9月発行の第3版です。

その子はたち櫛にながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな

女性の恋愛感情を自由に詠んだ斬新なこの歌集は、たちまちベストセラーになりましたが、賞賛と同時に強い批判も受けました。

表紙ならびに挿絵は雑誌「明星」で仕事を共にした洋画家の藤島武二の手によるもので、次のように説明されています。

この書の体裁は悉く藤島武二先生の意匠に成れり。表紙画みだれ髪の輪郭は恋愛の矢のハートを射たるにて矢の根より吹き出でたる花は詩を意味せるなり。

初版では著者名は鉄幹との結婚前の「鳳晶子」でしたが、この第3版では「与謝野晶子」となっています。また第二歌集「小扇」の広告もついています。

晶子は作歌のほか、古典研究や女性の自立を求める評論など幅広く活動しました。日露戦争時に出された「君死にたまふことなかれ」は非戦を訴えた詩として有名です。